

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は 109 ~ 110 円台での振幅か

[ 8月23日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		8月16日~8月20日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.75	110.23(19)	109.11(16)	109.67	+0.08
ユーロ・ドル	1.1784	1.1801(16)	1.1666(19)	1.1685	-0.0112
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,013.25	-963.90	日本10年債利回り	0.010	-0.021
ダウ平均株価	34,894.12	-621.26	米10年債利回り	1.243	-0.033
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 23日 独8月製造業PMI速報値、独8月非製造業PMI速報値  
ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月非製造業PMI速報値  
英8月製造業PMI速報値、英8月非製造業PMI速報値  
米7月中古住宅販売件数
- 24日 NZ第2四半期小売売上高  
独第2四半期国内総生産(GDP)確報値  
米7月新築住宅販売件数
- 25日 NZ7月貿易収支  
日本6月景気動向指数改定値  
独8月ifo景況感指数  
米7月耐久財受注速報値
- 26日 米新規失業保険申請件数  
米第2四半期国内総生産(GDP)改定値  
ジャクソンホール会議(28日まで)
- 27日 豪7月小売売上高  
独7月小売売上高指数  
カナダ7月鉱工業製品価格  
米7月個人所得・個人支出  
米8月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値  
ジャクソンホールでパウエルFRB議長の講演

【前回のレビュー】米雇用統計が良好な結果となったことやFOMCメンバーによるテーパリングに向けての前向きな発言などから、ドルは堅調な動きを見せており、ドル円は110円台に乗せた後は底堅い動きとなっている。ドル円は大きな崩れはないとみられ、110円台を中心に堅調な流れが続くとした。

【米景況感が悪化】

ドル円は上下に振幅を見せつつも、おおむね109円近辺から110円台後半のレンジ内で推移を見せている。6日に発表された7月の米雇用統計で、非農業部門雇用者数は前月比+94.3万人増となり、事前予想の87.0万人増を上回った。好調な米雇用統計を受けて、ドル買いの動きに傾いた。

その後はFOMCメンバーによるタカ派的な発言もあり、ドル円は堅調な動きを見せて、11日の米7月消費者物価指数(CPI)を前に110.80近辺まで上昇した。米CPIは上振れが期待されていたこともあり、おおむね想定通りだったことで、ドル円は利益確定の売りなどに押されて下げに転じる展開となった。

13日にドル円は売りに押されて110円を割り込むことになる。8月の米ミシガン大学消費者信頼感指数速報値が70.2となり、事前予想の81.2や前回の81.2を大きく下回った。2011年以来、ほぼ10年ぶりの低水準となるなど、消費者マインドの悪化がドル売りにつながった。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大が景気回復への期待感の低下につながった。

16日には中国の7月の小売売上高や鋳工業生産が事前予想や前回値を下回ったことやアフガニスタン情勢の緊迫化などがリスク警戒感の高まりにつながった。さらに8月のニューヨーク連銀製造業景気指数が18.3となり、事前予想の28.5や前回の43.0を下回ったことで、ドル円は109.08近辺まで下落した。

17日にはアフガニスタン情勢への警戒感、7月の米小売売上高の下振れなどからNYダウは282ドル安。リスク回避のドル買いの動きなどから、ドル円は109円台半ばから後半で推移した。18日にはドル円は一時110円台に乗せたものの、その水準を維持できず。

この日発表されたFOMC議事要旨（7月27日～28日分）では、一部メンバーからは量的緩和の縮小（テーパリング）の年内開始を主張する一方で、一部には慎重な意見もあった。事前に早期テーパリング開始への期待感からドル買いが進んでいたこともあり、発表後はドル売りに押される展開となった。

8月26～28日にワイオミング州ジャクソンホールで開催される経済シンポジウムでの米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の講演に注目が集まっている。18日のFOMC議事要旨ではテーパリングの開始時期に明確なヒントがなく、パウエル議長の講演待ちの様相を呈している。パウエル議長の講演は東部時間27日午前10時（日本時間の27日の午後11時）に行われる予定となっている。

パウエル議長の講演の内容に左右されるとみられるものの、テーパリングそのものは遅かれ早かれ開始時期を決定することとなる。ただ、デルタ株の感染者数の拡大が消費者のマインドを一段と悪化させる可能性もある。こうした中、ドル円は109円付近では底堅い動きを見せそうだが、大きく上値を追うには力不足で、109～110円台で一進一退の動きとなりそう。ドル円の目先の予想レンジは、109.00～110.80円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、23日に米7月中古住宅販売件数、24日に米7月新築住宅販売件数、25日に日本6月景気動向指数改定値、米7月耐久財受注速報値、26日に米新規失業保険申請件数、米第2四半期国内総生産（GDP）改定値、ジャクソンホール会議（28日まで）、27日に米7月個人所得・個人支出、米8月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

#### 【ユーロドルは上値の重い展開か】

13日にドル売りの動きから、ユーロドルは1.1800ドル近辺まで上昇した。ただ、戻りの動きはその付近までにとどまり、21日移動平均線に上値を抑えられたこともあって下げに転じた。その後は1.1700ドルを割り込む水準まで下落している。

下げに転じた後は、ボリンジャーバンド-1σを下回る水準で推移しており、軟調な地合いが継続するとみられる。ユーロドルは上値の重い展開が続いて、一段安が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1550～1.1850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、23日に独8月製造業PMI速報値、独8月非製造業PMI速報値、ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月非製造業PMI速報値、英8月製造業PMI速報値、英8月非製造業PMI速報値、24日にNZ第2四半期小売売上高、独第2四半期国内総生産（GDP）確報値、25日にNZ7月貿易収支、独8月IFO景況感指数、27日に豪7月小売売上高、独7月小売売上高指数、カナダ7月鋳工業製品価格などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。